

『命を守る大切なルール』

藤里小学校 4 年
成田 真帆



わたしのおじいさんは、交通事故でなくなっていました。わたしが生まれる前のことなので、わたしは一度もおじいさんに会ったことがありません。おじいさんが生きていたら、いっしょに出かけたり、トランプで遊んだり、楽しい思い出がたくさんあったはずです。今でも、たまにおじいさんに会ってみたいと思うことがあります。

おじいさんは、とてもやさしい人だったと聞いています。そんなおじいさんが起こしてしまった交通事故とは、スリップです。雪道を運転中、すべって一回転したようです。雪道はすべるから気を付けて運転しなければいけないことは、おじいさんも分かっていたのに、ちょっとした気のゆるみからか、おじいさんの命は消えてしまいました。

去年の冬、わたしは、おじいさんと同じようなけいけんをするところでした。お母さんといっしょに温泉から帰るときのことです。お母さんが雪にハンドルをとられ、車が勝手にとなりの車線に向かっていったのです。わたしは、何が起こったのかよく分からず、心ぞうだけが大きな音でドキドキと鳴っていました。後で、おじいさんのことを思い出し、おじいさんもすごくこわい思いをしたんだろうなあと思いました。

わたしがふだんからあぶないと思うことは雪道の運転の他にもあります。

一つ目は、スピードの出しすぎです。わたしのお父さんは、せいげん速度を守らず、急いで運転することがあります。前の車があまりにもおそいときは、オレンジ色の追いこしきん止のところでも追いこしてしまうことがあります。お父さんだけではなく、他の人もそのようなあぶないことをしているのを見たことがあります。とても悲しくなります。

二つ目は、自転車です。細い道でも自由に走れる自転車は便利ですが、自分勝手に乗っている人が多いと思います。左右をかくにんしないでとび出したり、横にならなではばをとっていたり、自転車のルールを守っていないことがあります。

今のわたし達が気を付けなければいけないこと、守らなければいけないことはたくさんあります。左右のかくにんをすること、横に広がらずに一列になること、スピードを出しすぎないこと。すべて、みんなが守れるルールです。ルールは、みんなの命を守るためにあるものです。みんながルールを守って、少しでも事故をなくせたいと思います。

そして、わたしのおじいさんのような悲しい事故がなくなることを願っています。



山崎莉子さん



佐々木星哉さん



桂田 茜さん

『とび出しあぶない』

米田小学校 2 年
小山 晴奈



わたしのいえの前は広がっているので、いろんなあそびができます。いえの車も行ったりきたりするので、気をつけてあそんでいます。

この前、おにいちちゃんとサッカーをしてあそびました。おにいちちゃんはサッカーがすきで、七夕のたんざくにも、「サッカーがじょうずになりますように。」と書いてあります。

まず、わたしがボールを、おにいちちゃんのほうにけりました。おにいちちゃんが、わたしのほうにけりかえました。また、わたしがおにいちちゃんのほうにけりました。すると、どうろにころころとこがっていききました。おにいちちゃんが、どうろにとび出してボールをとりに行きました。そのとき車がきました。わたしは、「おにいちちゃん、車、車。」と言いました。おにいちちゃんは、わたしのこえを聞いて、とまりました。わたしは、「ああ、あぶなかった。ひかれるところだったね。」とおにいちちゃんに言いました。ボールがころがってしまったときは、とび出しをしないように気をつけたいと思いました。

わたしのいえの前のどうろは、すこしまがっているのですが、車がきたかどうかあまり見えません。だから、右や左を見るときは、どうろまで行って、車がきたかこないか、しっかり見ないといけないなあと思いました。

わたしのいえの前は、あまり車が通らないので、左右をよく見ることをわすれてしまいそうです。だけど、じぶんのいのちをしっかりまもるために、左右を見ることをわすれないようにしたいです。